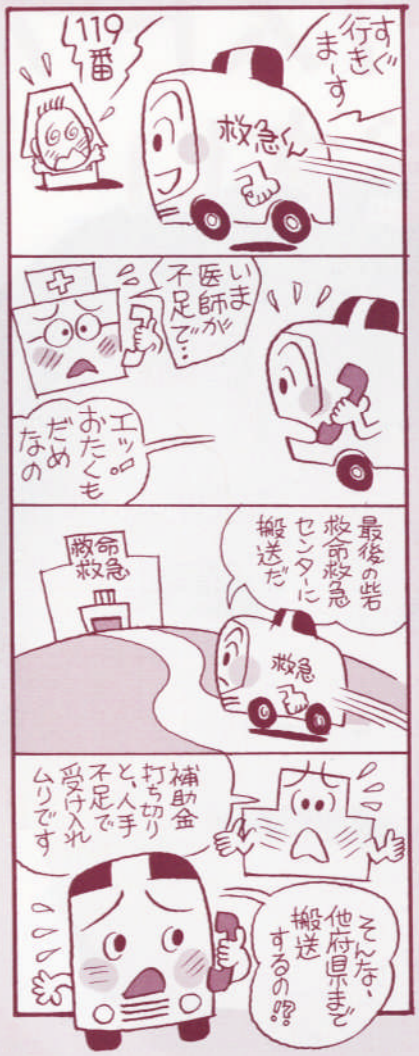
崖っぷち 大阪の救命救急医療



交通事故や脳血栓で急に倒れる、子どもが発作を起こした…。そんな時、救急車を呼んで一刻を争う治療が必要です。その受け皿となる救命救急センターは、府民にとっての「命綱」です。重病・重症患者をいつでも搬送できるよう体制を整えるのは、大阪府の責任です。

救命救急医療は大阪府の責任で

■救命救急センターは災害時の拠点病院

4つの救命救急センターは、地震・火災・津波・化学汚染・放射能汚染などに対する救急の中心になる病院として、府から災害拠点病院として指定されています。大規模災害はもとより、福井県の原発、熊取町の京大原子炉実験所や大阪空港・関西空港を抱える地域として、救命救急センターの役割はいっそう大きなものになっています。

■自治体の役割は「住民の福祉の向上」(地方自治法)

救命救急は住民の安全と安心につながる、大阪府として最も重要な事業のひとつです。しかし、府は千里救命救急センターへの補助金を済生会に移管して5年たったということを理由に、2011年度に3億5000万円(年額)も全額廃止し、府の責任を完全に放棄しました。

ベイエリア開発や関空リニア、カジノ構想などのムダづかいや大型開発を止めれば、救命救急医療を充実させる財源は十分にあります。

千里救命救急センターへの補助金復活を求めて宣伝

三島救命救急センターには、息子が小さかった頃、何回もお世話になり、本当に助けていただきました。補助金を増額することすれ、減額なんていう計画など、とんでもありません。(高槻市・50代女性)

15年前バイクでガードレールに激突。千里救命救急センターで、10時間以上かかる大腸縫合手術ののち、大動脈をつなぎ合わせる再手術をうけ、元気な体に。私のいのちを救ったのは、救命救急センターです。(吹田市・70代男性)

大阪府三島救命救急センター(高槻)

府からの年間4500万円の補助金削減の動きに対し、署名活動などの運動が広がっている

済生会千里病院　千里救命救急センター(吹田)

2006年に府から済生会に移管されたが、2011年度から府の補助金3億5000万円が廃止。府民から補助金の復活を求める声が広がる

府立中河内救命救急センター(東大阪)

府の運営形態見直しの動きに対して、東大阪市長が市への移管・合併を表明。2011年10月「中河内救命救急センターを考える会」が発足。

「泉州の救命救急は府の責任で」と医療キャラバン(泉南市長に申し入れ)

府立泉州救命救急センター(泉佐野)

関西空港開港に伴い、府の事業として開設されるが、りんくう総合医療センターに移管する。府からの補助金がなくなると病院運営が困難になる。

泉州8市1町で「泉州救命救急センター守れ」の意見書が採択

「大阪府の事業である救命救急医療の充実を求める請願署名」にご協力ください